

「JENESYS2019」中国社会科学院青年研究者代表团第2陣(招へいプログラム)の記録 (対象国：中国，テーマ：高齢化社会対策)

1. プログラム概要

中国社会科学院が派遣した「JENESYS2019」中国社会科学院青年研究者代表团第2陣計25名が、10月27日から11月3日までの7泊8日の日程で来日しました（団長：劉紅（リュウ・コウ）中国社会科学院定年退職幹部局 局長）。

代表团は東京・秋田を訪問。「高齢化社会対策」をテーマとして厚生労働省および秋田県庁、大学、関係施設等の訪問・交流、視察を通じて、同分野への理解や関係者との親睦を深めたほか、各地で歴史・文化・自然の参観や秋田県仙北市でホームステイを通じ、包括的な対日理解を深めることができました。また、報告会で帰国後のアクション・プラン（活動計画）について、代表者が発表しました。

2. 日程

10月27日（日）

羽田空港より入国

【見学】皇居二重橋、東京タワー

【オリエンテーション】

10月28日（月）

【講義聴講】厚生労働省（高齢化社会対策に関するブリーフ）

【視察】独立行政法人地域医療機能推進機構東京高輪病院

【歓迎会】

10月29日（火）

【訪問・交流】一橋大学経済研究所

【視察】社会福祉法人シルヴァーウィング 特別養護老人ホーム新とみ

【見学】パナソニックセンター東京

10月30日（水）

秋田へ移動

【見学】寒風山展望台、なまはげ館男鹿真山伝承館

【文化体験】温泉旅館宿泊

10月31日（木）

【講義聴講】秋田県庁（秋田県における高齢化社会の現状と課題）

【訪問・交流】一般社団法人秋田市シルバー人材センター

【見学】秋田市民俗芸能伝承館

11月1日（金）

【見学】角館武家屋敷

【体験】仙北市ホームステイ

11月2日(土)

【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

11月3日(日)

羽田空港より出国

3. プログラム記録写真 (訪問地：東京都、秋田県)



10月28日【講義聴講】厚生労働省



10月28日【視察】独立行政法人地域医療機能推進機構東京高輪病院



10月28日【歓迎会】外務省アジア大洋州局
深堀裕賢 地域協力室長による挨拶



10月29日【訪問・交流】一橋大学経済研究所



10月29日【視察】社会福祉法人シルヴァーウィング 特別養護老人ホーム新とみ



10月31日【講義聴講】秋田県庁



10月31日【訪問・交流】一般社団法人秋田市シルバー人材センター



11月1日【見学】角館武家屋敷



11月1日【体験】仙北市ホームステイ



11月2日【報告会】劉紅団長が訪日活動を総括

4. 参加者の感想（抜粋）

○日本の社会では、高齢者がますます「主役」になりつつある今日、政府・企業・団体・機関・個人などがそれぞれ相応の対応や措置を講じている。政府は、大量のデータを基に合理的な未来の発展の趨勢を予測し、正確な表やグラフを作成して、政策設計の参考としている。このように、高齢化社会への対応・政策はデータに依拠し、政府の主導で人々のニーズを十分に考慮し、特に介護保険制度は高齢者の生活保障、低所得者層の保険料減免に寄与しており、低所得者層への配慮を体現していることが見てとれる。団体や機関では、積極的に介護ロボットやペットロボットなどの使用・研究開発を進め、介護職員の仕事を補助している。高齢者への心身の癒し、介護職員の作業負担の軽減、高齢者の精神的ニーズにも考慮していて、経営者は細部まで配慮している。個人では、一人一人が高齢化社会への対応に努力し、シルバー人材センターの会員や民宿経営の家庭など、誰もが出来るだけ仕事を続け、生活レベルを高めている。子供達も分業・協力し、時間を作って年老いた両親の世話をしている。

日本の高齢化社会に対する政策の考え方や具体的な措置など、何れも同様の問題に直面している中国への参考となる。例えば、中国の国情に合った介護保険制度の策定や、特別養護老人ホームのデイケア施設での介護補助ロボットの幅広い使用、高齢者の精神的ニーズに対する対応などだ。

日本人の礼儀作法は、人と人の関係にある程度緩和させ、善意を伝え、尊重を体現できている。中国は礼節の国だが、今はその継承と生活における運用をあまり重視していないようだ。日本に習い、もっと礼儀の大切さを認識し、生活において実践することができるだろう。

○高齢化が日本の経済と社会発展に与える影響は大変大きい。高齢化が最も深刻な秋田県では、総人口が既に大幅に減少しており、このままだと2100年には僅か20~30万人となり、人口がゼロになることもありうる。全体的に日本の総人口も減少傾向にある。少子化対策が功を奏さず、高齢者人口が増加の一途を辿れば、高齢化がより深刻になり、日本の未来は非常に暗いものとなるだろう。

日本人の決まりを守り、人に迷惑をかけないという国民的性格は中国人が参考にすべきで、自覚・清潔さ・正義正しさも中国人が学ぶに値する。

経済発展と都市化や工業化の進展に伴い、日本の家庭における、子供が年老いた両親の老後の世話をし、子供を助けるために年老いた両親が孫の面倒をみるという良い伝統がすっかり変貌している。家庭の少子高齢化への対応力は大幅に弱まり、社会と政府の高齢化課題への対応の圧力と難度が高まっている。中国の家庭でも老後の世話をする能力が低下傾向にあるが、全体的に日本ほどではない。晩婚、未婚、高齢出産、子どもを持たない、老人の一人暮らしなどの問題は、今後も中日直面する長期的社会問題であり、少子高齢化は両国が共に直面する課題だ。

○日本の医療と高齢者ケアに対するサービス意識や治療後の養護分野は、中国よりかなり進んでいるが、中国では新しい技術や設備の先進機能と効果を強調している。正に、この精密化管理やサービスの運用の下で、日本は平均的な高齢者へのケアや医療条件により、世界各国からの患者へ高品質でバランスのとれた高齢者ケアや医療サービスの提供が可能なのだ。例えば東京高輪病院では、高齢者医療施設として毎年数千人の中国人旅行客の健診を受け入れ、その患者一人一人に対する細やかなサービスと配慮は、中国が学び、対応するに値する。

また、高齢者ケア分野では、日本は高齢者の人口比率が高いため、認知症患者の入院治療が多くなり、多くの高齢者が入院治療を受けている。そのため、日本の老人ホームは地域社会と密接につながり、地域と高齢者に奉仕している。一方、中国の老人ホームは家庭の補助をする傾向にあり、まだ活動できて生活能力がある高齢者には老後のケアのニーズがある。両国は高齢者ケアの問題では国情が

異なり、発展の傾向もやや異なっているが、多くの点で互いに参考にすべきだ。

○今回の視察は、主に日本の高齢化と少子化の現状に関するもので、中でも厚生労働省の講義では、日本社会の高齢化の基本データ、発展傾向、低所得高齢者への補助政策、及び認知症介護措置について全面的に理解することができた。それを基に、一橋大学経済学部の講義と合わせ、コスト効果について、特に税收政策の角度から高齢化が日本に与える多重の影響を理解した。その後、東京高輪病院の視察でも、秋田県庁と秋田市シルバー人材センター訪問でも、日本の高齢化対策の運用方法のステップ、更にはサービス理念や利用者のフィードバックまで、大変直観的に認知できた。今回のテーマを考察し、以下の三点で大きな収穫があった。

第一に、政策理念、制度の制定から市場と社会サービス部門の参与・執行の順序に基づき、浅い所から深い所へ、表面から内面へと、日本の高齢者産業と介護業務の全貌を理解できた。それと同時に、アメリカの社会文化、人口の状況、政策の策定とを横断的に比較し、中国の現在の高齢者生存状況とも合わせて、グローバルに、普遍的な問題の角度から、中国の高齢化政策の更なる開拓及び実行の方向性を整理することができた。

第二に、研究的視野が広がり、「高齢化状況の中国と西洋との比較」について注目し、今後は社会文化、法律などの角度から更に高齢化問題を理解し考えてみようとした。

第三に、ホームステイ先で日本の一般市民の生活のリズムやスタイル、伝統的風習を感じ、彼らの情熱や真面目さ、細やかさは、まるで我が家にいるかのような感じがし、大変感激した。私はこの友情を国に持ち帰って周りの人に伝え、日本を理解してもらい、日本に遊びに来て、日本文化に触れるよう勧める。

5. 受入れ側の感想

◆訪問先関係者

○代表団全員が熱心に講義を聴いていたことに加え、講義後には活発な質疑が行われたことから、真摯な姿勢で研修に臨み、課題に対して真剣に取り組んでいると感じられた。

6. 参加者の对外発信

12月6日/中国社会科学院 Web サイト

日本の高齢化应对经验及启示

2019-12-06 来源:《社科院专刊》2019年12月6日总第505期 作者:张君(政治学研究所)

分享到: 

字号: [大] [中] [小] [关闭] [打印]

10月27日至11月3日,应日本日中友好会馆邀请,中国社会科学院组织JENESYS2019第二批中国社会科学青年学者访日代表团赴日本考察调研。活动主题为“老龄化社会对策”,由院离退休干部局局长刘红带队,共有24名团员。通过面对面的访问和交流,大家对日本的老齡化状况、养老对策及社情民意等有了更深入细致的了解。

主要活动情况

此次访日活动大致可以归纳为三大类,涵盖了学术讲座、实地调研以及参观考察。

一是学术讲座类。厚生劳动省是日本负责医疗卫生和社会保障的主要部门,访问期间向我们介绍了日本老齡化的相关政策知识。老健局老年人支援课、振兴课的官员在展望2040年社会保障制度改革面临的新形势基础上,介绍了护理制度改革的相关举措;老健局护理保险计划课的官员介绍了护理保险的制度架构、财源构成及规模等内容,并讲解了如何分类分级减免低收入群体的护理保费;老健局总务课的官员在推算未来认知症老人数量的基础上,介绍了推进认知症对策综合战略,即新橘色计划的基本思路和七大支柱措施。

一桥大学是日本社会科学研究的领军者,访问期间,双方交流了中日两国老齡化及其应对。一桥大学经济研究所教授小盐隆士讲解了日本老齡化的严重程度,预估了今后社会保障给付额将持续增长,提出通过重新定义“老年人”,可以增加社会中“在支撑的人”的数量,以此应对越来越严重的老齡化形势。中国社会科学院人口与劳动经济研究所副研究员王磊介绍了我国人口老齡化的现状、特征及趋势,指出中国人口老齡化面临的挑战,强调我国应从推动经济发展方式转型、调整人口政策、推进养老金制度改革、促进养老服务业发展等四方面积极应对人口老齡化。

秋田县老齡化程度在日本高居首位,它为我们提供了如何应对老齡化的地方案例。秋田县健康福祉部长寿社会课的官员,首先分析了秋田县老齡化社会的现状,然后介绍了秋田县需要支援或护理的各类别人数,最后从基础建设、促进参与、提高资质、改善劳动环境和待遇等四方面讲解了关于护理人才的保障措施,尤其是该县的生活支援及护理预防措施。

二是实地调研类。访问调研过程中，日中友好会馆尽可能多地安排我们实地走访了与老龄化应对有关的机构。例如，地区医疗机能推进机构是2014年4月成立的新医院集团，机构性质属于独立行政法人。它合并了前社会保险医院、前厚生年金医院、前船员保险医院等全国57家医院，其理念在于打造遍布全国的医疗网络，与地区居民、行政机关等相关机构携手合作，共同推进地区医疗改革，为安心生活的社区建设作贡献。东京高轮医院是东京一家中等规模医院，主要用于急性期医疗及社区综合护理。“新宙”特别养护老人之家开设于2002年，是一种公立运营的护理设施。除设有入住型护理老人福祉设施外，它还提供短期入住生活护理、日托护理等服务。秋田市老年人才中心属于比较特别的职业介绍机构。其目的是，为到龄退休后仍希望继续工作的老年人提供临时、短期的就业或其他简单工作，同时促进所属会员参加各种志愿类社会性活动，为社区福利水平的提高和社区活力的维持作贡献。

三是参观考察类。在学习调研之外，日中友好会馆还安排了部分参观考察，包括东京的松下中心、秋田的南鹿真山传承馆以及秋田市民俗艺能传承馆等。

日本老龄化现状、应对思路及启示

一般来说，人口老龄化是指由于人均寿命的延长和人口生育率的降低，老年人口和年轻人口在总人口中此长彼消，由此造成老年人口占比出现动态的相应增长。按照国际上通行的界定，当一个国家或地区60岁以上老年人口占比达到10%，或者65岁以上老年人口占比达到7%，就意味着该国或地区已经处于老龄化社会。从比较视角来看，日本是世界上人口老龄化程度最高的国家，目前65岁以上人口已达3588万人，在总人口中占比达到28.4%；秋田县在日本全国中老龄化程度又属最高，65岁以上人口占比高出全国平均水平八九个百分点。

面对日益严峻的少子老龄化问题，日本政府在养老保障方面的主要应对思路可以概括为两条途径。一方面，在劳动人口骤减的情况下，大力挖掘高龄人口的“工作潜能”，促进以老年人为主的多样化就业和社会参与，保持并提升整个社会的活力。另一方面，在劳动力制约加剧的情况下，通过研发护理机器人、改进医疗技术等多种手段，争取到2040年时提高医疗和护理服务的整体效率，以此确保这些必需的服务能保持在适当的供给水平。

通过对日本的考察调研，我认为中国可以获得以下启示。

一是加大宣传推广力度，推动全社会养成良好的饮食习惯；二是定期免费筛查常见的重大疾病；三是出台鼓励生育的配套政策措施；四是总结推广护理保险制度经验。

・ 今回の訪日活動を通じ、日本から高齢化社会対策について学ぶべきことは4つあると思う。
1. 宣伝・推進力を強め、国内社会において良好な食習慣を推進する。2. 無料の定期健診を行い多発する重大疾病を発見する。3. 出生率を高めるためのサポート政策を制定する。4. 介護保険制度の実施経験を総括し活用する。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表



- ・日本が如何に高齢化問題を解決しているか、日本の高齢化社会に関する政策や対策を同僚へ伝え、意見交換をしたい。
- ・今回の活動で多くの人と知り合えた。帰国後も連絡を取り続け、友人関係を保ちたい。
- ・同僚や友人へ日本の歴史、文化、習慣、制度について伝え、日本社会に対する認識を広める。



- ・日本の研究機関や大学の研究所と緊密な連絡を保ち、日本へ行き学術研究を行うか、若しくは日本の学者を中国へ招き、学術交流を行いたい。
- ・帰国後、家族や友人へ日本で経験した内容を共有し、家族や友人とまた日本を訪れたい。
- ・各種メディアを通じて日本について関心を持ち、日本全体の理解を深める。